

美術科学習指導案（1年2組）

令和3年5月20日（木曜日） 13:45～14:35 美術室

1 題材 文字で楽しく伝える

2 題材の目標

- (1)-① 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解することができる。
(共通事項)
- (1)-② 意図に応じて表現方法を創意工夫して表すことができる。（「A表現」(2)ア(ア)）
- (2)-① 伝える相手や自分自身についてのイメージなどから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ることができる。（「A表現」(1)(イ)）
- (2)-② 伝達のデザインの目的との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めることができる。（「B鑑賞」(1)(イ)）
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に見た人に対して情報を分かりやすく伝えることなどを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

3 題材設定の理由

(1) 教材観

①題材の価値

本題材では、クラスの学友に対して自分の情報を分かりやすく伝えるために、自分に関する要素を込めた漢字一字を使った絵文字を制作する。自分について自己紹介をするというイメージなどから主題を生み出し、形や色などが相手にもたらす効果、情報の分かりやすさと美しさの調和を総合的に考え構想し、表現の意図に応じて創意工夫をして見通しをもって創造的に表す。また、伝達のデザインの作品や生徒の作品などを鑑賞し、調和の取れた美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と造像的な工夫などについて考え、見方や感じ方を培うことができる。

②題材の系統性

- ・本題材学習後の「文字で楽しく伝える」では、タブレットの描画ソフトを活用して試行活動を繰り返し、グループでの構想検討タイムを通してアイデアを深め、自分を文字でデザインすることによって表現をしていく。
- ・第2学年の「形と色の挑戦」では、点や線、色の明暗、画面の構成などが作品を見た人に与える影響を考えることで、自分の心情という目に見えないものを抽象的に表現していく。
- ・第3学年の「今の自分、これからの自分」では、これまでに学習した表現技法をもとに、友達と楽しい時間を過ごす自分や迷ったり悩んだりする自分、未来へ向かって前向きに努力する自分など、自画像で表現していく。

(2) 生徒観（男子16名、女子18名 計34名）

- ・知識・技能については、形や色彩などの性質が感情や印象にもたらす効果があること自体はなんとなく理解しているが、これは、図画工作の中ではまだ、美術のように知識を系統的学習しているわけではなく、生徒たち自身の制作経験によって得られた生徒ごとに経験がまちまちであることが原因と考えられる。
- ・思考・判断・表現については、自分を表現することに生徒たちは多数の生徒が恥ずかしいと感じている。これは、生徒たちが思春期を迎えたことで、自分をさらけ出すことに抵抗を感じるようになっただけでなく、自分の表現における技能の力量を感じ取り、表現することに抵抗を感じることが原因と考えられる。
- ・主体的に学習に取り組む態度については、文字の書体から感じ取る印象について、積極的に考えようとする態度が身に付いている生徒がほとんどである。しかし、考察これは、小学校までの図画工作科では、制作活動のための技能に関する知識は学ぶことがあっても、学問としての美術表現における知識や基礎を学ぶ機会が少なかったことが原因と考えられる。

(3) 指導観

- ・書体の違いによって受ける印象の違いについて考える活動や、書体に関する知識を学ぶ活動を通して、書体に関する知識やレタリングの技能を身に付けることができるようにする。
- ・絵文字を使った駅名の看板や絵葉書などの作品を鑑賞する活動を通して、文字の形や色、構成などが見る人に与える効果について理解が深まるようにする。
- ・自分の名前から1文字決め、マッピングによって得られた言葉と組み合わせることで、自分を漢字1文字で表現する構想を練ることができるようにする。
- ・自分の構想について「構想検討タイム」でグループにおける意見を交わし、発想や構想を深まるようにする。
- ・試行活動によって検討した絵文字を制作し、完成させることができるようにする。
- ・作品を鑑賞し、表現活動を振り返る。

4 指導と評価の計画 美術科 1年 題材「文字で楽しく伝える」(全6時間計画)

目標	(1)-① 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解することができる。(共通事項)					
	(1)-② 意図に応じて表現方法を創意工夫して表すことができる。(「A表現」(2)ア(ア))					
目標	(2)-① 伝える相手や自分自身についてのイメージなどから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ることができる。(「A表現」(1)(イ))					
	(2)-② 伝達のデザインの目的との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めることができる。(「B鑑賞」(1)(イ))					
目標	(3) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に見た人に対して情報を分かりやすく伝えることなどを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。					
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	①文字の形や色、構成などが見る人に与える効果について理解している。	①伝える相手や伝えたい内容などをもとに主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練っている。	①美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく形や色を工夫して文字をデザインする表現の学習活動に取り組もうとしている。			
	②タブレットの描写ソフトを工夫して生かし、制作の順序を考え、見通しをもって表している。	②デザインされた文字から、伝達の効果と美しさなどを感じ取り、作者の表現の意図や工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	②美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく文字に込められた表現の意図や工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			
過程	時間	◎目標・課題	○学習活動	重点	記録	備考
出会う	1	◎書体の違いによって受ける印象の違いについて考える活動や、書体に関する知識を学ぶ活動を通して、書体に関する知識やレタリングの技能を身に付ける。 書体の違いによって受ける印象の違いを考えよう。	○「文化祭」という言葉を表現する書体による印象について考察する。 ○明朝体とゴシック体について学び、それぞれの違いについて考察する。 ○「永」の字からレタリングの書き方を学ぶ。	知態		知①：行動観察 記述分析 態①：行動観察

	1 (本時)	◎絵文字を使った駅名の看板や絵葉書などの作品を鑑賞する活動を通して、文字の形や色、構成などが見る人に与える効果について理解する。 文字で分かりやすく自分を伝える方法を考えよう。	○参考作品を鑑賞することで、表現の意図や工夫について考察する。 ○思考ツールを使うことで自己を分析し、発想を広げる。	態思	○態②：行動観察・記述分析 ・絵文字に込められた表現の板や工夫を感じ取り、鑑賞の活動に取り組むことができる。
試す・広げる	1	◎自分の名前から1文字決め、マッピングによって得られた言葉と組み合わせることで、自分を漢字1文字で表現する構想を練る。 自分を表現する絵文字の構想を練ろう。	○レタリング辞典とタブレットの描画ソフトを活用することにより、複数パターン考える。	思態	態①：行動観察・記述分析
	1	◎自分の構想について「構想検討タイム」でグループにおける意見を交わし、発想や構想を深める。 自分の構想をグループで発表し、アドバイスをし合おう。	○グループで自分の構想について説明し、たがいにアドバイスをし、再構想する。	思態	○思②：記述分析 ・作者の意図や工夫を考え、見方や感じ方を広げている。
表す	1	◎試行活動によって検討した絵文字を制作し、完成させる。 自分を表現する絵文字を完成させよう。	○「試行活動」や「構想検討タイム」を経て決定した絵文字を仕上げる。	思技	○思①：作品分析 ・わかりやすさと美しさの表現の調和と構想が練られている。 技①：作品分析 ・文字の形や色などが人に与える効果について理解している。
振り返る	1	◎作品を鑑賞し、表現活動を振り返る。 自他の作品を鑑賞して表現の意図や工夫を考えよう。	○様々な視点から自他の表現作品を見合い、活動を振り返る。	態	○態②：記述分析 ・自他の作品の表現の意図や工夫を感じ取ろうとしている。

5 本時の展開 (2/6)

(1) 目標

形や色など、絵文字に込められた表現の工夫を考える活動を通して、文字で自分を分かりやすく伝える方法を理解することができる。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
<p>1 前時の活動を振り返る。 ○文字の書体から受ける印象について学習したことを振り返る。</p> <p>2 地域の特徴を伝える絵葉書の作品を鑑賞する。 ○それぞれの作品がどのように工夫されているか鑑賞する。 ○個人で鑑賞し、その後班やクラスで発表する。 ・その土地の特産品が使われている。 ・絵を文字の形に変えている。 ・あえて文字だと分からなくしている。</p>	<p>○前時を振り返ることで、文字の書体が変わることで、見る人の印象を変える力があることを再確認できるようにする。</p> <p>○複数の鑑賞対象を提示することで、表現の発想が深めることができるようにする。</p> <p>○鑑賞する際には、生徒が何をについて考えればよいかキーワードを提示する。</p> <p>○描かれているものが「都道府県名」だと気づかせることで、生徒が以前学習した「阿字ヶ浦」における絵文字表現との関連に気づき、どんな工夫があるか考察できるようにする。</p> <p>○「阿字ヶ浦」以外にも、木龍歩美さんの文字のデザイン例を紹介することで、主体的に構想に取り組む意欲を高めることができるようにする。</p>
<p>課題：文字で自分を分かりやすく伝えるには、どう表現すればいいだろうか。</p>	
<p>3 生徒に主題を生み出させる。 ○自分を表す文字とは何か考える。 ・自分の名前 ・自分の好きなもの ○文字で自分を伝えるためには、どんなことを表現すればよいか考える。 ・自分の好きなもの ・自分の得意なこと ・自分の身の回りにあるもの</p> <p>4 思考ツールを用いて自分を分析する。 ○ロイロノートの「マッピング」を使い、自分について分析する。 ○分析して出た言葉から、特に重要なものを数点選ぶ。</p> <p>5 本時で学んだこと、考えたことについて振り返る。 ○本時で学んだことなどについてワークシートに記入する。</p>	<p>○先ほどまで駅の名前や都道府県の名前についてがん替えさせたことで、生徒が自分と名前の文字の関わりに気づくことができるようにする。</p> <p>○絵から生まれた漢字の成り立ちについて触れることで、漢字と絵の関連に気付くことができるようにする。</p> <p>○漢字に意味があることを想起させることで、自分の名前にも意味があることに気づくことができるようにする。</p> <p>○入学当初の自己紹介に関する補助発問をすることで、 ○次の思考ツールである「マッピング」に思考の流れを繋げることができるようにする。</p> <p>○思考ツール「マッピング」を活用することで、生徒が自分について多角的に分析することができるようにする。</p> <p>○出てきた言葉どうしを関連付行けさせることで言葉の組み合わせを作り、生徒がさらに自分に関する発想を広げることができるようにする。</p> <p>○助言することで、生徒が自分に関する分析をより自由に発想することができるようにする。</p> <p>○分析した言葉の中からいくつかピックアップしておくことで、次の時間の構想をスムーズに始めることができるようにする。</p>
<p><まとめ・振り返り> ・文字で自分をわかりやすく表現するためには、形や色を工夫することで自分を構成する要素を組み合わせ、絵文字を考える必要がある。</p>	

<p><「学びの質」を高めるための具体的な手立て> ・参考作品を鑑賞することにより多様な表現方法への理解を深める。 ・思考ツール「マッピング」の自己分析による構想の「試行活動」へつなげる材料を作成。</p>
--